

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2972200089		
法人名	株式会社クローバー		
事業所名	グループホーム四つ葉のクローバー		
所在地	奈良県宇陀市菟田野古市場481番地		
自己評価作成日	平成27年7月25日	評価結果市町村受理日	平成27年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成27年 8月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中で認知症の症状があってもその人らしく、暮らして頂けるケアを目指し、職員全員が入居者ごとの状況を理解し、楽しく、笑顔の絶えない生活の支援に取り組んでいます。そのために近隣の系列事業所や母体の医療機関とも連携を図り、介護だけでなく医療でも安心して頂ける環境を提供しております。介護においては各事業所の行事への参加や応援体制の充実。医療において月2回の主治医の往診、月1回の歯科医の検診、歯科衛生士の口腔ケア、訪問看護ステーションによる訪問等々体調の管理も充実しております。介護・医療ともに家族様に代わって入居者一人一人に寄り添い支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内のグループホームである利点を生かし、病院・施設との連携がとれています。また、法人に頼ることなく、グループホーム独自の工夫に努められ、利用者の人生と向かいあい、一人ひとりに個性を持った支援を重視され、取り組まれています。また職員も、運営理念を良く理解し、支援の中で実践されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で開かれた施設であることを目指し、入居者の尊厳を守ることを大切に日々の生活を支援します。そのために入居者一人一人に合った生活の方法を考え、職員間で共有しています。	グループホーム独自の理念を掲げ、職員全員で確認し、具体的なケアについて意見の統一を図っておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内の行事、清掃活動や系列事業所の行事、当ホームのイベントにも参加して頂けるよう呼びかけ、参加いただいています。	自治会には加入されていませんが、事業所も地域社会の一員との認識のもと、地域の行事やイベントへの参加、事業所催事への招待等を通じて、交流に努められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループ内で実施される認知症の講演会や研修会への呼びかけやチラシの配布等を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事、事故報告、入居者の状況等の報告や問題点や課題の話し合い、家族様の要望等を聞いたり、行政からの指摘や指導等幅広く話し合いを行っている。	運営推進会議を設置し、開催されています。会議では理念と向上への意見交換等を行い、サービス向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	宇陀市担当者様とは綿密な情報交換をとることができている。入居者の状況はもとより、事故報告や細かな相談事にも対応してくれる状況にあり相互間の関係は良好と考えている。	運営推進会議で話し合いの機会を持たれている他、何かあればすぐに連絡をとる体制を持ち、連携に努められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束しない介護を前提に取り組んでいる。	門扉は施錠されていますが、安全を確保しつつ、自由な暮らしの実践に取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会を通じ、理解を深めています。日常的にも言葉や態度に職員間でチェックできるような体制を整え、入居者の環境改善に日々取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修会に参加し理解を深めています。成年後見人制度を利用されている方もあり、職員も熟知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明と改定時の説明はきちんと行うようにしている。説明は口頭と紙面の両方で行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	認知症の進行により、入居者自身の気持ちを表現することが難しい。本人の要望に寄り添えるように家族の協力を得て、何気ない会話の中から意見や要望を探っている。	家族の訪問時に不安に感じている事や、希望・要望等を聞き出す取り組みをされ、出された意見は職員間で検討し、その結果を報告し運営に反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットでの運営が基本。職員からの意見要望に対し、管理者は速やかに返答する。また、管理者の気づきや要望については各ユニット間に伝え、協議してもらっています。	面談時や、申し送りの中で、意見を提案できる機会を設け、運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人と勤務状況の確認を行い、資格や生活状況に応じた給与水準を設け年に一度の人事考課や管理者が相応の給与が必要と認めた時は会社に書類を提出し、推薦します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれが自信を持って仕事ができるように得意な分野を生かし、取り組んでいる。又、自己啓発セミナーや認知症研修等に積極的に参加し、業務にフィードバックできるようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各事業所間の会議や勉強会に参加している。他者の意見を聞くことで職場に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安、家族の不安を全面的に受け入れ、早期に解消できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況や生活歴等を十分に話し合い、本人と家族の立場に立って考える。特に家族の不安は本人と同様に強いので管理者は家族に対して十分な配慮を持って対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の状況を踏まえ、担当ケアマネや入居前に利用していたサービス事業者の意見等を聞いて、必要とするサービスを検討します。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前や状況の変化の度に生活の中でできることを見極め、役割のある生活を送れるようにします。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細なことでも連絡し、状況を共有します。又、月に一度は生活状況を紙面に記載し、写真と一緒に送ります。写真を通じ、生活の一部を観ていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族を通じて馴染みの人たちへ連絡を取っていただき、面会の機会を設けています。又、面会時は家族以外の方々との写真撮影を行い、居室に飾ったりしています。	馴染みの人や場所との関係維持・継続は、生活上、極めて大切と理解し、馴染みの人たちとの面会の機会をつくる等の支援に努められています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係の把握に努めています。レクリエーションや運動、散歩を行い、共有する時間を作っています。テーブル席やソファの座る位置などにも配慮し、自然に関わり合えるよう支援します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の状況については家族の要望があれば継続して支援を行うようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言いやすい環境づくりを行っています。職員間で解決できる問題は職員間で。管理者で行うことについては管理者まで本人もしくは職員が代弁して伝達しています。	暮らしの中での言動を詳細に把握・記録し、サービスに活かす取り組みをされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの経緯を十分に把握し、家族、職員間で共有し、ご本人のケアに生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	契約時の聞き取りを十分に行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の想いを大切に、聞き取りを充分に行いながら、介護計画作成につなげています。	介護計画は、本人主体の暮らしを反映したものとするため、関係者が定期的に意見交換し、現状に即したものとなるよう努められています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や職員間の情報の共有の記録等を十分に記載し、状況の変化等を踏まえ介護計画を作成している。又、状況が変化する都度、介護計画を作成します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列事業所と隣接しているため他職種間で意見交換を行いながら、より良いサービスが提供できるようにその時々に応じたサービスの提供を行うよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや民生委員、ご近所の協力を得て、地域の行事に参加しています。多くの場面で地域の方に協力をして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体となる辻村病院がかかりつけ医となっています。本人及び家族にも納得してもらい、往診・通院等に関しても職員が対応します。又、関連医療機関とも連携し、より良いサービスが提供できるように努力しています。	かかりつけ医については、契約時に相談し、本人・家族等の意向を尊重されています。また、定期的に訪問診療があり、適切な医療の確保が図られています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列の辻村病院、訪問看護ステーションと協力し入居者の体調について相談や意見交換を綿密に行うとともに毎日、必要な看護を必要とする入居者についても訪問看護による看護を受けることができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者状況の把握や系列病院との連携を綿密に行うことができるように月に1回連携介護を実施しています。家族からは事前に同意書を提出してもらいスムーズな情報提供を実践しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は関連病院で終末期を迎える方針で説明していますが家族の要望を尊重し、本人や家族の要望に添える様に事業所として努力しています。	運営方針では重度化に対応しないとされていますが、終末期への対応は重要な問題と認識し、検討されています。	家族にとって、終末期への対応は極めて大きな問題でありますので、関係者で対応を検討される事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	系列事業所全体で心肺蘇生や特変時の対応の為の実習を行っています。そのため、事前に各入居者の疾患を十分に把握できるよう勉強会等を実践しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練の実施。管轄消防署の助言や指導を受けています。ただし、地域住民との消防訓練は未だ実施されておらず今後の課題である。	定期的に避難訓練を実施されています。	災害発生時には利用者を安全・迅速に屋外に誘導する事が求められます。このためには地域住民の協力は不可欠ですので、応援協力体制の構築に努められる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族構成や生活歴等一人一人の状況把握し、本人が自然な振る舞いや発言ができるような声かけを行っています。	一人ひとりに合わせた話し掛けや、語調に配慮した支援をされています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	あらゆる場面で事前の声かけを行いながら、本人の想いをくみ取ったり、意思疎通の困難な方は表情やスキンシップから思いを探り、自己決定できる形をとり、職員間で共有しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの生活歴を重視し、その方の想いに添った生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容ともに本人と相談し、外出したり、理容師の訪問によるカット等を実施している。又、ほしいものがあれば、家族に頼んだり、買い物代行したり、近隣のスーパーに行ったりしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、ホーム内で食事の献立、購入、調理を実施しており、本人の希望に添いやすくなっています。なるべく栄養バランスはもちろんですが本人の希望に合った献立も検討しています。出来る調理も手伝ってもらっています。	利用者の好みを踏まえた献立づくりや食材の購入、調理をされています。重度の利用者が多い中、出来る方には準備を手伝ってもらう等、楽しく食事ができるよう工夫されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の把握、水分量のチェックを行い、状況を把握しています。一人一人の状況に合った食の提供を実践しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に対応。毎日、朝・夕2回は口腔ケアを実施し、口腔内の清潔の保持に努めています。又、週1回は歯科衛生士の訪問があり、口腔内のケアと歯科医の訪問による検診を実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状況を基に、なるべくトイレで排泄ができるように声掛け、支援を行っています。又、本人の希望にすぐに対応し、トイレ案内を行っています。	排泄記録の確認と時間帯を見計らって誘導し、トイレで排泄出来る様に支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分量や食事の見直し、運動等を行いながら、往診時には主治医にも相談し薬の処方等も行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	状態が重度化し、施設の入浴設備では対応できない状況にあります。入浴日や入浴時間が本人の意向に合わない入居者もあり、個々の希望が反映されない状況にあります。	本人の意向に沿っていつでも入浴できるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床時間、就寝時間はご本人の状況に合わせて対応しています。午前・午後の臥床時間の確保や就寝中、気持ちよく休んで頂けるよう、照明や空調に気を配っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理は職員をはじめ、系列病院、薬局等協力関係を保っています。適切な服薬になるよう、職員から主治医に対し、適切な報告ができるよう、毎日の観察を重視し、職員間で申し送りを実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調に見合った生活のリズムを作ることに心がけています。日々の中で作業の役割分担を行ったり、外出し、気分転換を図ったりしながら生活を支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、体力面を考慮すると外出できる状況にはないがなるべく気分転換になるような環境づくりを行っています。	外出により受ける効果を良く理解され、広い敷地内や周辺散歩の日常化に努められています。また、家族の協力を得て、地域の祭りや行事にも参加されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常的にはお金の所持をされる方はいないが本人や家族の希望があれば支援体制はできている。近隣のスーパーやコンビニ、売店等への買い物も可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話での連絡や手紙の代筆、携帯電話の所持等通信に関する支援体制はできています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は常に季節感のある雰囲気味わえるよう、音楽を流したり、ディスプレイをしています。又、空調に関しても季節に合った調整を行い、常に快適に生活できるように環境づくりを行っています。	共用空間は、清掃も行き届き清潔感があります。また、季節が感じられる適度な装飾や自然光の採り入れの工夫をされ、穏やかに過ごせる場所が確保されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間を自由に移動したり、自分で居場所を選んで過ごす時間を作ったり、レクリエーションや共通の趣味を生かした活動ができるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には環境の変化が負担にならないようにご自宅で使用していたものを持参頂いて不安なく生活できるよう配慮しています。	利用者が使い慣れた家具や好みの品が持ち込まれ、安心して暮らせる居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活ができるように、張り紙等でわかりやすくし、一人でも移動がスムーズにできるようにしています。		